

ご挨拶

日本生理人類学会第77回大会
大会長 樋口 重和

日本生理人類学会の会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、第77回大会を開催させていただき運びとなりました。福岡では過去にすでに10回の大会が開催されており、今回で11回目の開催となります。最後に開催されたのは2014年6月の第70回大会(綿貫茂喜大会長)ですので、4年ぶり(7大会ぶり)の福岡での開催となります。

今大会では1日目に「睡眠」をテーマに特別講演とシンポジウムを企画しました。近年、睡眠の重要性が次々に明らかにされ、メディアでも多く取り上げられ、社会的な関心となっています。日本人の睡眠時間は世界的に最も短いこともよく知られています。特別講演では国立精神・神経医療研究センターの三島和夫先生に「ヒトの睡眠の多様性」についてご講演を頂きます。シンポジウムは第13回人類学関連学会協議会合同シンポジウムとして、日本人類学会、日本文化人類学会、日本民族学会、日本霊長類学会、日本生理人類学会からそれぞれ、睡眠を専門に研究されている先生方にご登壇いただきます。本シンポジウムでも、睡眠の多様性をキーワードに、進化、生理、文化の面から、人にとっての睡眠、あるいは夜の過ごし方について人類学的な視点から見つめなおしたいと思います。

2日目のシンポジウムでは、「人工環境へのヒトの適応」をテーマにします。環境へのヒトの適応能は長年にわたって生理人類学が主題としてきたテーマです。変化し続ける環境に私たち人間は適応できているのでしょうか。また、未来に向けて、ヒトの適応研究はどのような可能性を秘めているのでしょうか。本シンポジウムでは、温熱、光、栄養、エイジング、脳、遺伝分野の研究において、生理人類学会を代表する方々にご登壇いただきます。

一般演題でも、様々の分野から興味深い演題がたくさん集まりました。口頭発表・ポスター発表問わず活発な議論が交わされることを期待しています。福岡には何度も足を運ばれている方も多くおもいますが、本大会が皆様にとって新しい発見と出会いの場になることを期待しています。スタッフ一同皆様の参加を心より歓迎いたします。

【協賛企業】

(50 音順)

アイティーシー株式会社
インタークロス株式会社
株式会社O:
株式会社ダイナセンス
株式会社デジタルメディック
株式会社トプコンテクノハウス
株式会社ファンケル
株式会社プロアシスト
株式会社ホンダ・リサーチ・インスティテュート・ジャパン
株式会社ミドリ印刷
株式会社ミュキ技研
キッセイコムテック株式会社
ケイエルブイ株式会社
竹井機器工業株式会社
徳重化学株式会社
トビー・テクノロジー株式会社
日本光電工業株式会社
ニホンサンテック株式会社
メロンテクノス株式会社

【大会実行委員】

大会長 樋口 重和 (九州大学大学院芸術工学研究院)

実行委員長 元村 祐貴 (九州大学大学院芸術工学研究院)

実行委員 (50 音順)

安陪 大治郎 (九州産業大学健康・スポーツ科学センター)

江頭 優佳 (国立精神・神経医療研究センター)

大下 和茂 (九州共立大学スポーツ学部)

キム ヨンキュ (九州大学大学院芸術工学研究院)

工藤 奨 (九州大学大学院工学研究院)

小崎 智照 (福岡女子大学国際文理学部)

津村 有紀 (純真短期大学食物栄養学科)

中島 弘貴 (九州大学大学院芸術工学研究院)

平松 千尋 (九州大学大学院芸術工学研究院)

福田 裕美 (福岡女子大学国際文理学部)

前田 享史 (九州大学大学院芸術工学研究院)

村木 里志 (九州大学大学院芸術工学研究院)

吉田 尚央 (九州大学大学院芸術工学研究院)

綿貫 茂喜 (九州大学大学院芸術工学研究院)

Loh Ping Yeap (九州大学大学院芸術工学研究院)

事務局 甲斐 卷奈 (九州大学)

吉川 理恵 (九州大学)

【歴代大会長および開催地】

回数	会期	開催地	大会長	備考
第1回	1979年 2月	東京都	吉田敬一	生理人類学懇話会
第2回	1979年 5月	福岡県	佐藤方彦	
第3回	1979年 10月	東京都	早弓 惇	
第4回	1980年 5月	茨城県	野村武男	
第5回	1980年 11月	長崎県	中村 正	
第6回	1981年 6月	東京都	菊池安行	
第7回	1981年 9月	北海道	横山真太郎	
第8回	1982年 6月	東京都	吉田敬一	
第9回	1982年 10月	神奈川県	関 邦博	
第10回	1983年 6月	東京都	吉田敬一	生理人類学研究会
第11回	1983年 9月	長野県	上田五雨	
第12回	1984年 5月	東京都	菊池安行	
第13回	1984年 11月	東京都	八倉巻和子	
第14回	1985年 5月	福岡県	加地正郎	
第15回	1985年 11月	茨城県	野村武男	
第16回	1986年 5月	大阪府	三平和雄	
第17回	1986年 11月	福岡県	佐藤方彦	
第18回	1987年 5月	福岡県	緒方道彦	
第19回	1987年 10月	京都府	登倉尋實	
第20回	1988年 5月	東京都	早弓 惇	生理人類学会
第21回	1988年 11月	大阪府	弓削 治	
第22回	1989年 5月	三重県	坂本 弘	
第23回	1989年 10月	福島県	田中正敏	
第24回	1990年 6月	東京都	坂本和義	
第25回	1990年 9月	兵庫県	古賀俊策	
第26回	1991年 6月	東京都	大野静枝	
第27回	1991年 10月	福岡県	川北和明	
第28回	1992年 6月	東京都	赤松 隆	
第29回	1992年 11月	大阪府	中根芳一	
第30回	1993年 6月	東京都	飯塚幸子	
第31回	1993年 11月	北海道	落藤 澄	
第32回	1994年 6月	千葉県	菊池安行	日本生理人類学会
第33回	1994年 11月	東京都	田村照子	
第34回	1995年 6月	大分県	矢永尚士	
第35回	1995年 11月	東京都	中島利誠	
第36回	1996年 6月	鳥取県	中山英明	
第37回	1997年 5月	東京都	片岡洵子	
第38回	1997年 9月	兵庫県	平田耕造	

回数	会期	開催地	大会長	備考
第39回	1998年 6月	東京都	梅村 守	
第40回	1998年 11月	秋田県	本橋 豊	
第41回	1999年 6月	東京都	飯塚 幸子	
第42回	1999年 10月	長崎県	竹本 泰一郎	
第43回	2000年 6月	福島県	田中正 敏	
第44回	2000年 11月	福岡県	石井 勝	
第45回	2001年 5月	東京都	宮崎 良文	
第46回	2001年 10月	大阪府	宮野 道雄	
第47回	2002年 5月	栃木県	垣 鏝 直	
第48回	2002年 11月	東京都	橋本 修左	
第49回	2003年 5月	福岡県	藤野 武彦	
第50回	2003年 10月	千葉県	勝浦 哲夫	
第51回	2004年 6月	北海道	井上 馨	
第52回	2004年 10月	東京都	信田 聡	
第53回	2005年 6月	長崎県	青柳 潔	
第54回	2005年 10月	宮城県	原田 一	
第55回	2006年 6月	東京都	工藤 奨	
第56回	2007年 6月	秋田県	高崎 裕治	
第57回	2007年 10月	福岡県	安河内 朗	
第58回	2008年 6月	大阪府	曾根 良昭	
第59回	2008年 10月	東京都	山崎 和彦	
第60回	2009年 6月	北海道	横山 真太郎	
第61回	2009年 9月	東京都	市丸 雄平	
第62回	2010年 5月	大阪府	井上 芳光	
第63回	2010年 10月	千葉県	岩永 光一	
第64回	2011年 6月	福岡県	栃原 裕	
第65回	2011年 11月	大阪府	小谷 賢太郎	
第66回	2012年 5月	長崎県	草野 洋介	
第67回	2012年 10月	東京都	菊池 吉晃	
第68回	2013年 6月	石川県	藤原 勝夫	
第69回	2013年 10月	京都府	福岡 義之	
第70回	2014年 6月	福岡県	綿貫 茂喜	
第71回	2014年 11月	兵庫県	中村 晴信	
第72回	2015年 5月	北海道	山内 太郎	
第73回	2016年 6月	大阪府	岡田 明	
第74回	2016年 10月	石川県	小林 宏光	
第75回	2017年 6月	千葉県	下村 義弘	
第76回	2017年 11月	京都府	若村 智子	
第77回	2018年 6月	福岡県	樋口 重和	

【お知らせ】

会 場：九州大学大橋キャンパス
〒815-8540 福岡市南区塩原4-9-1

会 期：2018年6月16日（土），17日（日）

大会参加費：

5月11日（金）以前

正会員8,000円、非会員10,000円、学生（正会員/学生会員）3,000円、学生（非会員）4,000円

5月12日（土）以降

正会員9,000円、非会員10,000円、学生（正会員/学生会員）4,000円、学生（非会員）5,000円

懇親会費：

正会員4,000円、非会員5,000円、学生（正会員/学生会員/非会員）2,000円

一般口演の発表要領：

- ・発表7分、質疑応答5分です。6分で1鈴、7分で2鈴、12分で3鈴を鳴らします。発表は時間厳守にてお願いします。
- ・Windows、PowerPoint 2016 によりプロジェクターで発表していただきます。発表用ファイルをUSBメモリに入れて発表会場前の受付にお持ち下さい。発表されるセッションの開始15分前までに受付にてファイルのコピーを済ませ、内容を確認して下さい（受付は1日目 8:00から、2日目 8:30から開始）。
- ・利益相反がある場合は発表スライド内でその旨を明示してください。

ポスターの発表要領：

- ・発表者はポスターショートプレゼンテーションとポスターセッションの両方に参加して下さい。

<ポスターショートプレゼンテーション>

- ・会場（1階ホール後方）にて研究内容を1分間で説明して下さい。発表を開始して1分経過しましたら自動で次の発表者のスライドに切り替わるフラッシュプレゼンテーション方式で実施します。
- ・テンプレートと提出用フォームのURLをメールにて送付します。テンプレートに従って発表用スライドをPDFファイルで1ページのみ作成し、提出用フォームよりPDFファイルをアップロードしてください。（**※切 6/8（金）まで**）PDFファイルのタイトルはポスター番号にしてください。（例 P1-01.pdf）

<ポスターセッション>

- ・当セッションの時間中はポスターの前に待機し、質疑応答を行ってください。
- ・ポスターは、A0判の大きさ（横84.1×縦118.9cm）に収まるように作成し、所定の場所に掲示してください。ポスターを貼り付けるテープ類は大会事務局が準備します。
- ・1日目、2日目の発表者ともに、ポスターは大会1日目の11時までに所定の場所に掲示してください。ポスターの張り替えはありません。
- ・ポスターの回収は2日目のポスターセッション終了後に各自でお願いします。閉会後に掲示されたままのポスターはこちらで処分させていただきます。
- ・利益相反がある場合はポスター内にその旨を明示してください。

発表抄録の著作権： 本大会要旨集に掲載された抄録の著作権は、発表者に帰属します。

【大会日程】

6月16日（土）

8:00～	受付開始	
9:00～10:50	口演セッション1	多次元デザイン実験棟1階
11:00～11:30	ポスターショートプレゼンテーション1	多次元デザイン実験棟1階
11:30～12:40	ポスターセッション1	多次元デザイン実験棟2階
12:40～14:00	昼休み（評議員会、若手の会）	
14:00～15:00 (13:30～一般受付)	特別講演 三島 和夫（国立精神・神経医療研究センター） 「ヒトの睡眠の多様性：社会時刻とのミスマッチに悩む人々」	多次元デザイン実験棟1階
15:10～17:30	シンポジウムI 第13回人類学関連学会協議会合同シンポジウム 「眠りの人類学 人は夜をどのように過ごしてきたか」	多次元デザイン実験棟1階
18:30～	懇親会	タカクラホテル福岡

6月17日（日）

8:30～	受付開始	
9:00～10:50	シンポジウムII 「人工環境へのヒトの適応～過去から未来へつなぐ」	多次元デザイン実験棟1階
11:00～12:00	総会・授賞式	多次元デザイン実験棟1階
12:00～13:15	昼休み（企業ランチョンプレゼン、関連会議）	
13:15～14:20	口演セッション2	多次元デザイン実験棟1階
14:30～15:00	ポスターショートプレゼンテーション2	多次元デザイン実験棟1階
15:00～16:10	ポスターセッション2	多次元デザイン実験棟2階
16:10	閉会	

関連会議等

6月15日（金）

14:30～17:30	理事会	事務部4階 大会議室
15:30～18:30	若手の会	5号館2階 524教室

6月16日（土）

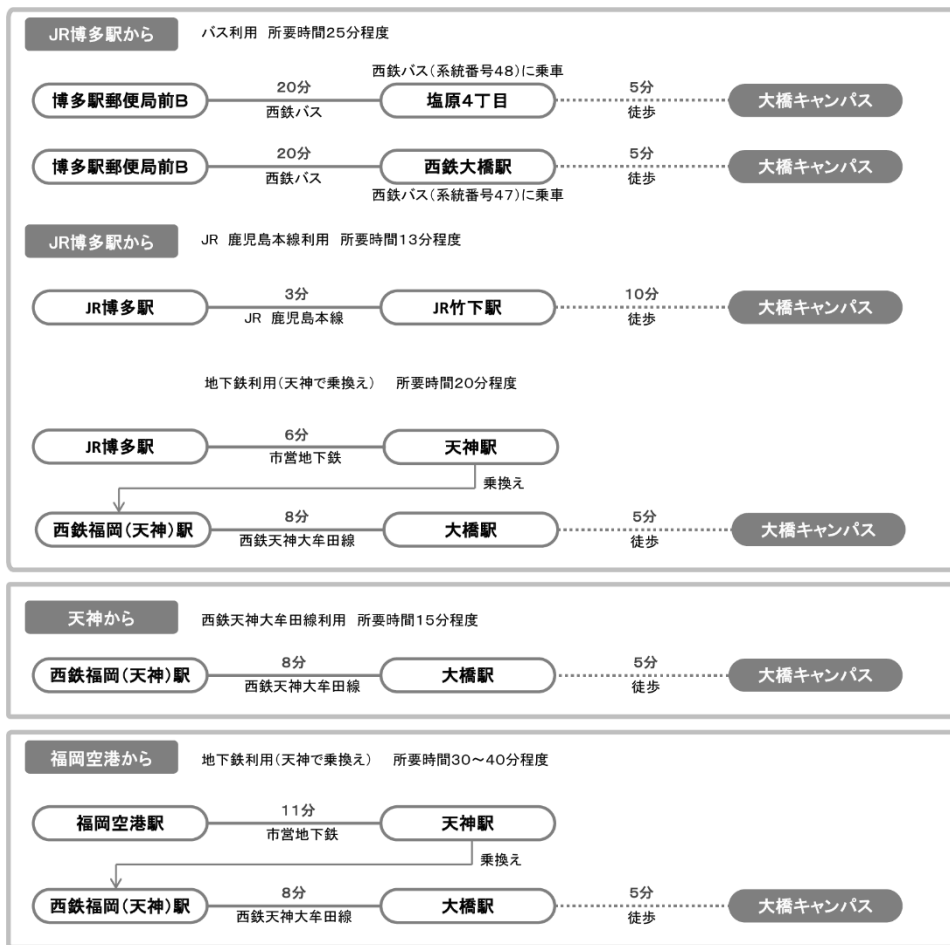
12:45～13:45	若手の会	多次元デザイン実験棟2階
12:45～13:45	評議員会	事務部4階 大会議室

6月17日（日）

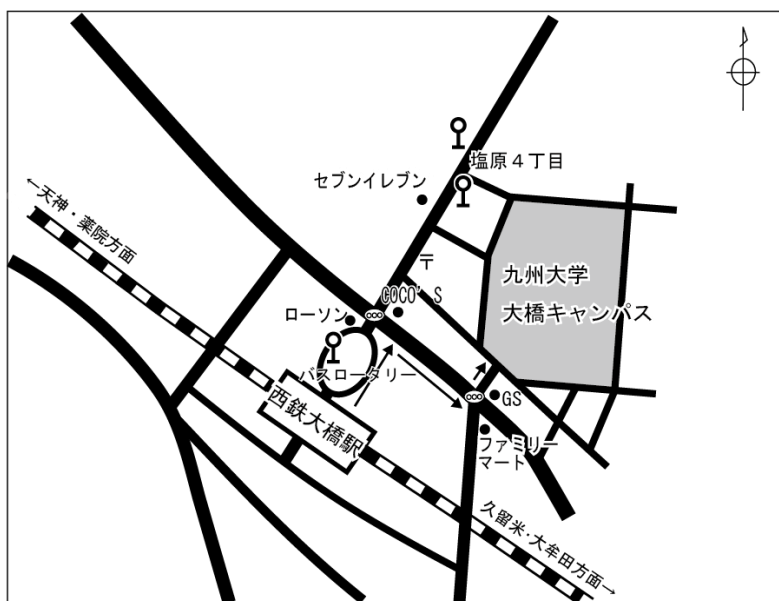
12:00～13:00	資格認定委員会	事務部3階 会議室
12:00～13:00	研究部会代表者会議	事務部4階 小会議室
12:10～12:40	企業ランチョンプレゼン	多次元デザイン実験棟1階

【会場までのアクセス】

大橋キャンパスへの交通アクセス

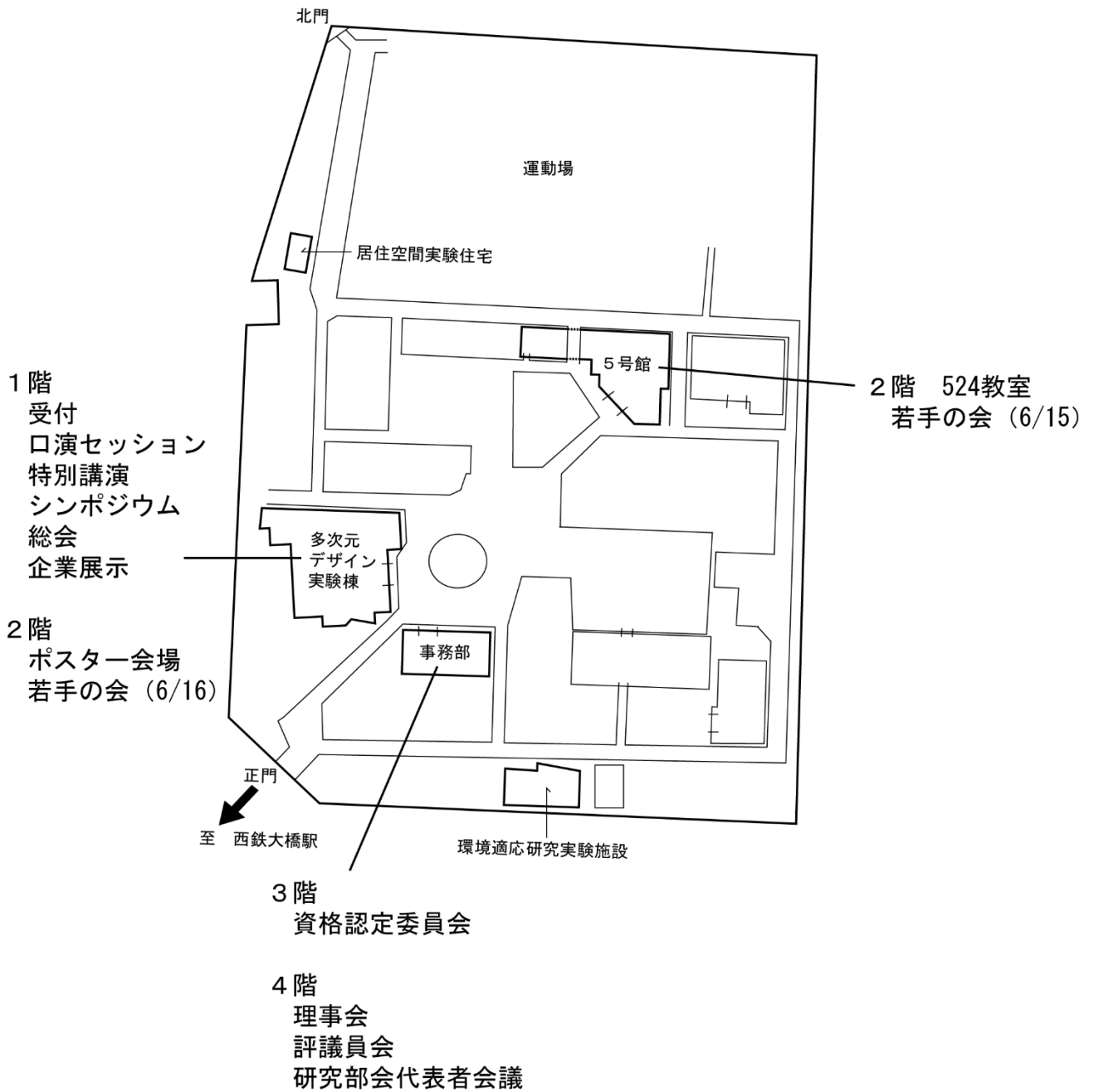


大橋キャンパス周辺マップ



所在地：〒815-8540 福岡市南区塩原 4-9-1

【キャンパス内マップ】

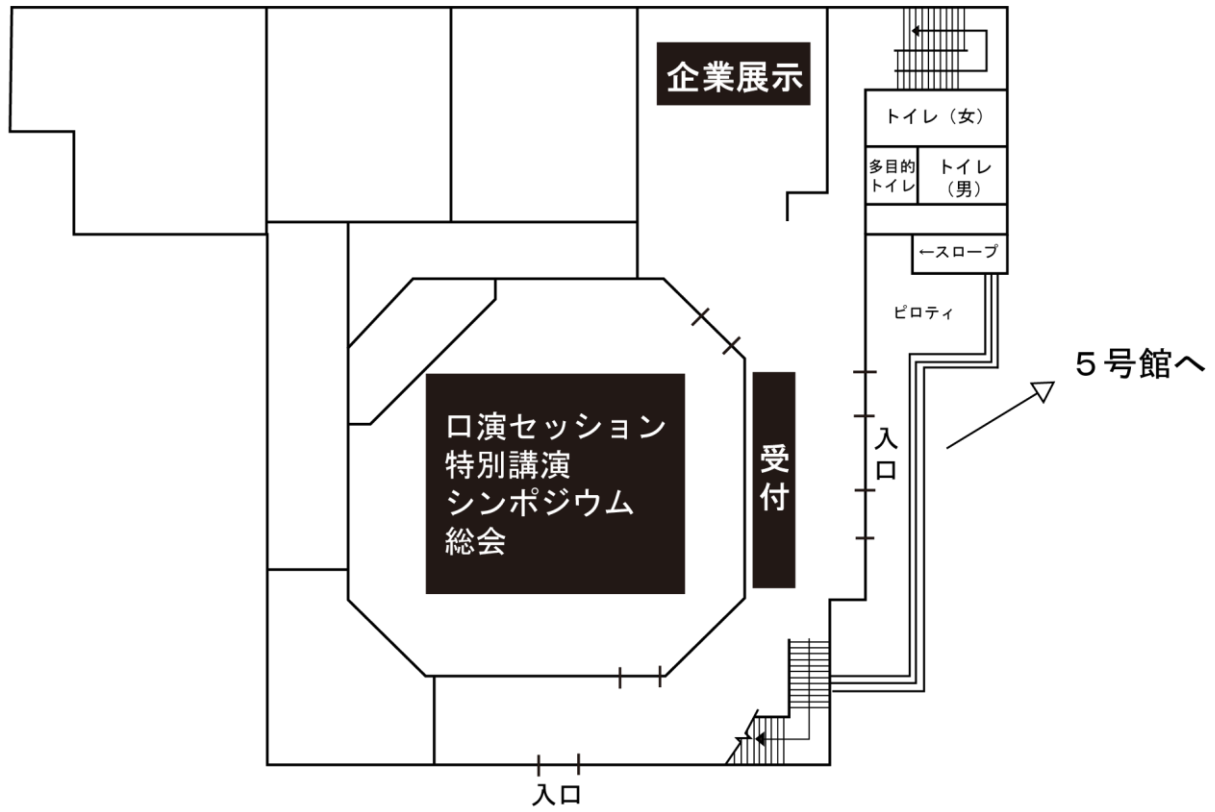


(備考)

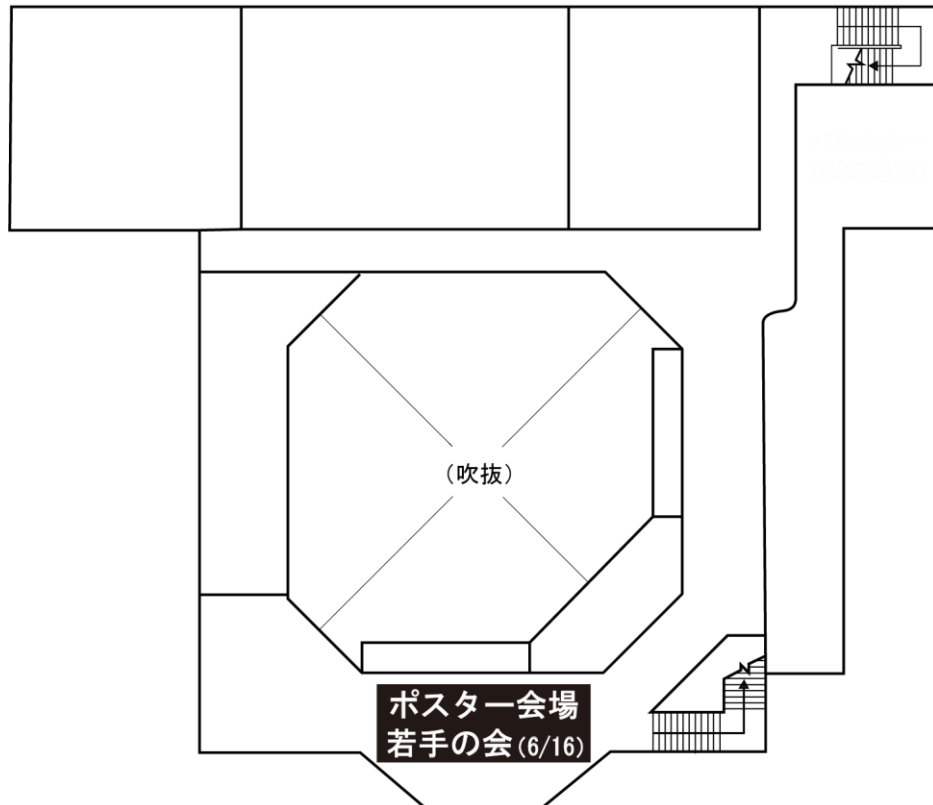
駐車台数には限りがございます。お車でのご来場はご遠慮いただき、公共の交通機関等をご利用ください。

【会場建物内】

多次元デザイン実験棟 1階



多次元デザイン実験棟 2階



【懇親会会場のご案内】

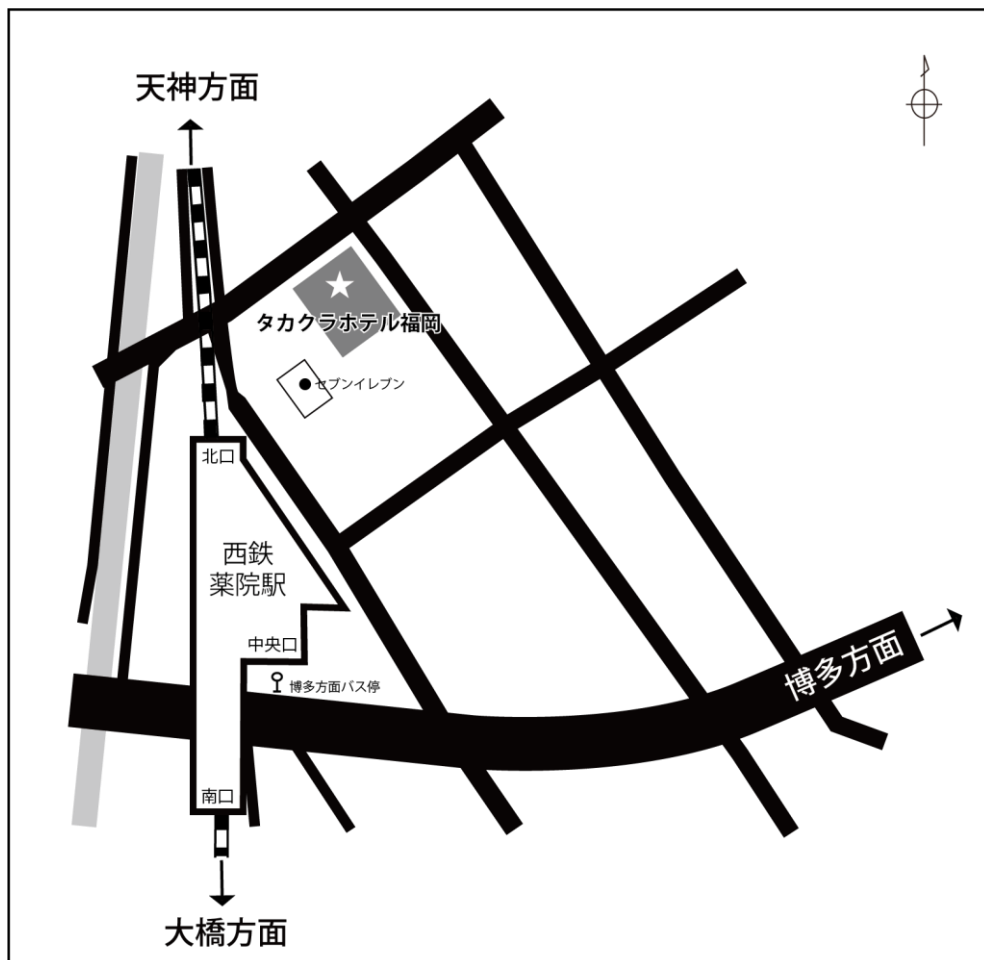
タカクラホテル福岡

〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-7-21 電話番号 092-731-1661

【大会会場からのアクセス】

西鉄天神大牟田線利用

- ・大橋駅より西鉄福岡（天神）行き乗車
- ・薬院駅下車
- ・薬院駅北口より徒歩1分



【プログラム】

大会1日目 6月16日(土)

口演セッション1

9:00~10:50

多次元デザイン実験棟1階

座長: 西村 貴孝 (長崎大学)

O1-01 クーリングダウンの実施が短期的及び中期的な疲労回復効果に及ぼす影響

山田 雄大¹⁾, 横江 顕彦¹⁾, 大平 雅子¹⁾

1)滋賀大学教育学部

O1-02 思春期前児童におけるアセチルコリン誘発性発汗の性差・民族差

井上 芳光¹⁾, 藪本 翠¹⁾, 大畑 佳那子¹⁾, 一之瀬 智子¹⁾, 上田 博之²⁾

1)大阪国際大学 2)大阪信愛女学院短大

O1-03 パッチ型センサを用いた暑熱下作業時の高体温検知システムの試み

時澤 健¹⁾, 岡 龍雄¹⁾, 土基 博史²⁾, 志牟田 亨²⁾

1)独立行政法人労働安全衛生総合研究所 2)株式会社村田製作所

O1-04 軽度寒冷曝露時の非震え代謝に見られる臓器連関の検討

松本 健太郎¹⁾, 小堀 祐資¹⁾, 若林 斉²⁾, 亀谷 俊満³⁾, 松下 真美⁴⁾, 斉藤 昌之⁵⁾

1)北海道大学大学院工学院 2)北海道大学大学院工学研究院 3)LSI 札幌クリニック 4)天使大学 5)北海道大学

座長: 山内 太郎 (北海道大学)

O1-05 段ボールベッドが夏期の睡眠環境での昼寝に及ぼす影響

水野 一枝¹⁾, 水野 康²⁾, 西山 加奈³⁾, 田邊 素子⁴⁾, 小林 大介⁴⁾, 水谷 嘉浩⁵⁾, 須田 理恵⁷⁾

1)東北福祉大学感性福祉研究所 2)東北福祉大学教育学部 3)仙台青葉学院短期大学 4)東北福祉大学健康科学部 5)J パックス株式会社 6)京都工芸繊維大学大学院 7)文化学園大学

O1-06 震災の影響による身体発育の鈍化に関する検証

上田 燈¹⁾, 藤井 勝紀¹⁾, 可兒 勇樹¹⁾, 小椋 優作¹⁾, 田中 望²⁾

1)愛知工業大学大学院経営情報科学研究科 2)東海学園大学

O1-07 減量を希望する女子大学生の骨格筋指数 (SMI) と希望体重について

大下 和茂¹⁾, 長嶺 健¹⁾, 田代 智紀¹⁾

1)九州共立大学スポーツ学部

O1-08 大学生のスマートフォン使用状況とエネルギー消費への影響

福田 裕美¹⁾, 古賀 美希¹⁾, 森田 健¹⁾

1)福岡女子大学国際文理学部

ポスターショートプレゼンテーション1 11:00~11:30 多次元デザイン実験棟1階

司会：大下 和茂（九州共立大学）

ポスターセッション1 11:30~12:40 多次元デザイン実験棟2階

P1-01 若年重度肥満における身体バランスの変動分析

武山 祐樹¹⁾, 藤井 勝紀¹⁾, 糟谷 浩輔¹⁾, 可児 勇樹¹⁾, 小椋 優作¹⁾, 田中 望²⁾

1)愛知工業大学大学院経営情報科学研究科 2)東海学園大学

P1-02 高齢者施設における日常生活活動の定量把握

市丸 雄平¹⁾²⁾, 色川 木綿子¹⁾, 東風谷 祐子¹⁾

1)東京家政大学 2)ハートケア市川

P1-03 3D Scanner を利用した高齢者の動作時の体表面変化分析

金 東美¹⁾, 金 熙恩¹⁾, 劉 喜天²⁾, 全 恩珍²⁾

1)慶北大学校衣類學科 2)浦項工科大学校産業經營工學科

P1-04 ヘッドSPA施術を想定した背部加温が及ぼす生理的効果

小川 俊介¹⁾, 萬成 哲也¹⁾, 多田 俊彦¹⁾, 戸田 和成¹⁾, 佐藤 千怜¹⁾, 中嶋 礼子¹⁾, 奥崎 則雅¹⁾, 細川 博史¹⁾, 岡本 宏司¹⁾, 大西 日出男¹⁾

1)タカラベルモント株式会社

P1-05 大学生の温度適応における気温変動の影響

藤森 加奈恵¹⁾, 田中 佑季¹⁾, 田井村 明博²⁾

1)長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科博士前期課程環境科学専攻 2)長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科

P1-06 快適入浴法 —自律神経と体温変化からの提案—

小番 美鈴¹⁾, 石澤 太市¹⁾, 綱川 光男¹⁾

1)株式会社バスクリン

P1-07 高濃度人工炭酸泉浴における水温の違いが身体冷却効果に及ぼす影響

田中 佑季¹⁾, 藤森 加奈恵¹⁾, 田井村 明博²⁾

1)長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科博士前期課程環境科学専攻 2)長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科

P1-08 寒冷環境における巧緻作業能力の低下とその要因に関する研究

鈴木 新一¹⁾, 小林 功嗣¹⁾, 佐藤 大輔²⁾, 若林 斉¹⁾

1)北海道大学 2)新潟医療福祉大学

- P1-09 生理人類学によるデザイン方法論
下村 義弘¹⁾, 夏 亜麗¹⁾, 志村 恵¹⁾
1)千葉大学大学院工学研究院
- P1-10 木製食器による緊張緩和およびコミュニケーション促進効果
早野 順一郎¹⁾, 本 健人¹⁾, 吉田 豊²⁾, 湯田 恵美¹⁾
1)名古屋市立大学大学院医学研究科 2)名古屋市立大学大学院芸術工学研究科
- P1-11 画像解析を用いた短時間睡眠による表情変化検出の試み
吉村 道孝¹⁾²⁾³⁾, 元村 祐貴⁴⁾, 勝沼 るり¹⁾, 北村 真吾¹⁾, 北沢 桃子²⁾³⁾, 岸本 泰士郎³⁾, 三村 将³⁾, 坪田 一男²⁾, 三島 和夫¹⁾
1)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神生理研究部 2)慶應義塾大学医学部眼科学教室 3)慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 4)九州大学芸術工学研究院デザイン人間科学部門生理人類学講座
- P1-12 病院外壁ビオトープガーデンが通院うつ患者に及ぼす生理的影響
池井 晴美¹⁾, 宋 チョロン²⁾, 嵯峨崎 泰子³⁾, 野崎 英樹³⁾, 宮崎 良文²⁾
1)(国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所 2)千葉大学環境健康フィールド科学センター 3)医療法人社団ユメイン野崎クリニック
- P1-13 視覚的注意に及ぼす咀嚼の影響
志村 まゆら¹⁾, 河口 未津紀²⁾, 小崎 美保³⁾
1)健康科学大学健康科学部 2)諏訪赤十字病院作業療法課 3)星が浦病院リハビリテーション部作業療学科
- P1-14 観察者の心的状態がミラーニューロンシステムの活動に及ぼす影響
池田 悠稀¹⁾²⁾, 西村 悠貴¹⁾²⁾, 樋口 重和³⁾
1)九州大学大学院統合新領域学府 2)日本学術振興会特別研究員 DC 3)九州大学大学院芸術工学研究院
- P1-15 見た目の色と温度の関連づけにおける色覚多様性の影響
森 優希¹⁾, 平松 千尋²⁾
1)九州大学芸術工学府芸術工学専攻デザイン人間科学コース 2)九州大学芸術工学研究院デザイン人間科学部門
- P1-16 振動するブルーライトの生理学的作用
湯田 恵美¹⁾, 山本 健人¹⁾, 吉田 豊²⁾, 早野 順一郎¹⁾
1)名古屋市立大学大学院医学研究科 2)名古屋市立大学大学院芸術工学研究科
- P1-17 睡眠習慣と安静時脳活動の関連 : ASL-fMRI を用いた検討
元村 祐貴¹⁾²⁾, 勝沼 るり¹⁾, 北村 真吾¹⁾, 綾部 直子¹⁾, 吉村 道孝¹⁾³⁾, 肥田 昌子¹⁾, 三島 和夫¹⁾
1)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 2)九州大学大学院芸術工学研究院 3)慶應大学医学部

- P1-18 実生活における L-Serine 摂取が概日リズムの光同調に及ぼす影響
大橋 路弘¹⁾, 李 相逸²⁾, 垂水 千恵³⁾, 松岡 小百合³⁾, 安尾 しのぶ⁴⁾, 樋口 重和⁵⁾
1)九州大学統合新領域学府 2)北海道大学大学院工学研究院環境人間工学研究室 3)株式会社ファンケル総合研究所 4)九州大学大学院農学研究院代謝・行動制御学 5)九州大学大学院芸術工学研究院デザイン人間科学部門
- P1-19 一般児童における睡眠と情緒・行動上の問題との関連
岡田 真一¹⁾, 神尾 陽子²⁾, 北村 真吾³⁾, 樋口 重和⁴⁾, 三島 和夫³⁾
1)九州大学統合新領域学府ユーザー感性学専攻 2)国立精神・神経医療センター精神保健研究所児童・思春期精神保健研究部 3)国立精神・神経医療センター精神保健研究所精神生理研究部 4)九州大学芸術工学研究院デザイン人間科学部門
- P1-20 大学生アスリートの競技力の差異による食習慣の乱れと睡眠習慣の関連
中出 美代¹⁾, 竹内 日登美²⁾, 川田 尚弘³⁾, 原田 哲夫²⁾
1)東海学園大学健康栄養学部 2)高知大学教育学部 3)成蹊大学経済学部
- P1-21 看護業務場面に対する視線の動き～サリエンシーマップとの比較～
宮本 清香¹⁾, 中野 元¹⁾, 久田 智未¹⁾, 渡瀬 蓉子¹⁾, 西条 寿夫²⁾, 堀 悦郎³⁾
1)富山大学大学院医学薬学教育部 2)富山大学大学院医学薬学研究部 (医学)システム情動科学 3)富山大学大学院医学薬学研究部 (医学)行動科学
- P1-22 小児期における睡眠と初経発来時期の関係について
黒川 修行¹⁾, 野井 眞吾²⁾, 鹿野 晶子²⁾, 千竈 健人³⁾, 北村 真吾⁴⁾, 樋口 重和⁵⁾
1)宮城教育大学 2)日本体育大学 3)日本体育大学大学院 4)国立精神・神経医療研究センター 5)九州大学大学院
- P1-23 女子の月経異常に繋がる初経早経・遅延の検証
糟谷 浩輔¹⁾, 藤井 勝紀¹⁾, 可兒 勇樹¹⁾, 小椋 優作¹⁾, 田中 望²⁾
1)愛知工業大学大学院経営情報科学研究科 2)東海学園大学
- P1-24 スカート着用時における衣服内気流
山崎 和彦¹⁾, 齋藤 雪奈¹⁾, 清水 咲希¹⁾, 永倉 由貴¹⁾
1)実践女子大学生活科学部
- P1-25 関東地域の学生の寝衣に関する実態調査：性差の検討
前田 亜紀子¹⁾, 須田 理恵²⁾, 西山 加奈³⁾, 水野 一枝⁴⁾, 水野 康⁴⁾, 久慈 るみ子⁵⁾, 井上 美紀⁶⁾, 難波 めぐみ⁷⁾
1)群馬大学教育学部 2)文化学園大学 3)仙台青葉学院短期大学 4)東北福祉大学 5)尚絅学院大学 6)東北生活文化大学 7)郡山女子大学

司会：樋口 重和（九州大学）

「ヒトの睡眠の多様性：社会時刻とのミスマッチに悩む人々」

三島 和夫（国立精神・神経医療研究センター）

コーディネータ：樋口 重和（九州大学）

若村 智子（京都大学）

第13回人類学関連学会協議会合同シンポジウム

「眠りの人類学 人は夜をどのように過ごしてきたか」

「霊長類の睡眠」

座馬 耕一郎（長野県看護大学）

「ヒト時計遺伝子（PER2）と光感受性が関連する不思議について」

太田 博樹（北里大学）

「睡眠・生体リズムの個人差」

北村 真吾（国立精神・神経医療研究センター）

「睡眠の文化的側面について」

豊田 由貴夫（立教大学）

「民族社会における夜の過ごし方」

中西 裕二（日本女子大学）

大会2日目 6月17日(日)

シンポジウムⅡ 9:00~10:50 多次元デザイン実験棟1階

コーディネータ: 工藤 奨 (九州大学)
前田 享史 (九州大学)

「人工環境へのヒトの適応～過去から未来へつなぐ」

「温熱と適応」	若林 斉 (北海道大学)
「光と適応」	樋口 重和 (九州大学)
「栄養と適応」	中村 晴信 (神戸大学)
「エイジングと適応」	村木 里志 (九州大学)
「脳と適応」	元村 祐貴 (九州大学)
「遺伝と適応」	中山 一大 (東京大学)

口演セッション2 13:15~14:20 多次元デザイン実験棟1階

座長: 石橋 圭太 (千葉大学)

O2-01 高所滞在時の睡眠状態と急性高山病の関連

堀内 雅弘¹⁾, 小田 史郎²⁾, 遠藤 淳子¹⁾, 桐原 陽子¹⁾, 福岡 義之³⁾

1)山梨県富士山科学研究所 2)北翔大学 3)同志社大学

O2-02 大学生・専門学校生の運動と睡眠習慣・精神衛生~2003-2017 質問紙研究~

原田 哲夫¹⁾, 社 知史¹⁾, 川田 尚弘¹⁾, Krejci, Milada²⁾, 中出 美代²⁾, 竹内 日登美¹⁾

1)高知大学大学院総合人間自然科学研究科環境生理学研究室 2)東海学園大学健康栄養学部

O2-03 下視野は感情表情の記憶想起が苦手である。

高雄 元晴¹⁾, Peerapol Prasansiang¹⁾

1)東海大学情報理工学部

O2-04 高気圧暴露時におけるタイムプレッシャーが類似した刺激の弁別に及ぼす影響

景山 望¹⁾

1)海上自衛隊潜水医学実験隊

O2-05 機械学習を用いた動画からの生体情報抽出技術の開発: 上眼瞼の動き検出に用いた一例

西村 英伍¹⁾, 元村 祐貴²⁾, 尾方 義人²⁾, 勝沼 るり³⁾, 吉村 道孝³⁾, 三島 和夫³⁾

1)九州大学大学院芸術工学府 2)九州大学大学院芸術工学研究院 3)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 4)慶応大学医学部

司会：福田 裕美（福岡女子大学）

- P2-01 手サポーターの研究
ファティン・アティラ¹⁾, 下村 義広²⁾
1)千葉大学大学院融合理工学府 2)千葉大学大学院工学研究院
- P2-02 装着型椅子と高さ可変スツールの身体負担評価
栗山 茜¹⁾, 秋山 一樹¹⁾, 渡邊 裕介¹⁾, 藤崎 健太郎¹⁾, 波多野 優¹⁾, 藤田 梨紗¹⁾, 韋 琦¹⁾, 張 琰雯¹⁾, 下村 義弘²⁾
1)千葉大学工学部 2)千葉大学大学院工学研究院
- P2-03 運動前の音楽聴取が運動時および運動後の生理指標に及ぼす影響
小林 真衣¹⁾, 梅田 剛志¹⁾, 大平 雅子¹⁾
1)滋賀大学教育学部
- P2-04 思春期男子における運動性熱中症と突然死について
久嶋 佳奈¹⁾
1)元日本大学大学院総合社会情報研究科
- P2-05 フィールド調査における夏季の温熱的主観申告の性別差・部位差・安定性
胡 少嘗¹⁾, 前田 享史²⁾
1)九州大学大学院芸術工学府 2)九州大学大学院芸術工学研究院
- P2-06 暑熱暴露と作業負荷による温熱生理反応とバランス能力の変化
Su-Young Son¹⁾
1)Kyungpook National University
- P2-07 手指の寒冷血管拡張反応の多様性と一塩基多型との関連
中島 悠輔¹⁾, 上杉 武蔵²⁾, 世良 俊博³⁾, 工藤 奨³⁾
1)九州大学大学院工学府 2)九州大学大学院システム生命科学府 3)九州大学大学院工学研究院
- P2-08 Effect of Temperature Step Changes on Physiological Responses and Mental Task Performance among Indonesian Subjects
Vidyarini Etika¹⁾, Shota Tsuruzono¹⁾, Maeda Takafumi²⁾
1)Department of Human Science Graduate School of Design Kyushu University 2) Department of Human Science Faculty of Design Kyushu University

- P2-09 ポリビア高地集団における循環動態の高度差について
西村 貴孝¹⁾, 大西 真由美¹⁾, 西原 三佳¹⁾, Juan Ugarte²⁾, 安河内 彦輝³⁾, 福田 英輝¹⁾, 安部 恵代¹⁾, 有馬 和彦¹⁾, 富田 義人¹⁾, 本井 碧¹⁾, 綿貫 茂喜⁴⁾, 青柳 潔¹⁾
1)長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 2)サン・アンドレス大学 3)三重大学先端科学研究支援センター
4)九州大学芸術工学研究院
- P2-10 BLS シミュレータにおける視覚フィードバックはスキル獲得に有効か？
谷 浩明¹⁾, 林 孝拓²⁾, 久保 晃¹⁾
1)国際医療福祉大学保健医療学部理学療法学科 2)おおたわら総合在宅ケアセンター
- P2-11 眼球指標を用いた情動推定に関する研究
黒瀬 亮成¹⁾, 金 亮奎²⁾, 吉田 大樹¹⁾, 林 小百合¹⁾, 池田 悠稀¹⁾, 樋口 重和²⁾, 元村 祐貴²⁾
1)九州大学統合新領域学府ユーザー感性学専攻 2)九州大学大学院芸術工学研究院
- P2-12 乳児における嗅覚刺激時の心拍および心拍変動性解析
恒次 祐子¹⁾, 石橋 圭太²⁾
1)東京大学大学院農学生命科学研究科 2)千葉大学大学院工学研究院
- P2-13 スギ心材および辺材チップの嗅覚刺激が前頭前野活動と自律神経活動に及ぼす影響
池井 晴美¹⁾, 宋 チョロン²⁾, 船越 貴恵³⁾, 名知 博司³⁾, 宮崎 良文²⁾
1) (国研) 森林研究・整備機構森林総合研究所 2)千葉大学環境健康フィールド科学センター 3)清水建設技術研究所未来創造技術センター
- P2-14 個人の特性に適した防災教育の基礎的検討
岸田 文¹⁾, 綿貫 茂喜²⁾
1)九州大学大学院統合新領域学府 2)九州大学芸術工学研究院
- P2-15 異なる湿度環境が聴覚オドボール課題時の P300 振幅に及ぼす影響
江頭 優佳¹⁾, 岸田 文²⁾, 中島 孝明²⁾, 綿貫 茂喜³⁾
1)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 2)九州大学大学院統合新領域学府 3)九州大学大学院芸術工学研究院
- P2-16 緊張課題刺激応答の比較
山下 政司¹⁾, 相川 武司¹⁾, 横山 徹¹⁾, 北間 正崇¹⁾, 菅原 俊継¹⁾
1)北海道科学大学保健医療学部
- P2-17 幼児における日中の活動量が睡眠と起床後の唾液バイオマーカーに及ぼす影響
朝倉 大晟¹⁾, 増田 翔太¹⁾, 五十棲 計¹⁾, 大平 雅子¹⁾
1)滋賀大学教育学部

- P2-18 睡眠負債に対する耐性ークロノタイプ別の検討ー
榎本 みのり¹⁾
1)東京工科大学医療保健学部臨床検査学科
- P2-19 睡眠で企業の健康経営を支援するサービス
谷本 潤哉¹⁾
1)株式会社O:
- P2-20 大学生における音楽視聴時の精神状態と概日位相,ストレス傾向の関係
竹内 日登美¹⁾, 門田 吉生¹⁾, 中出 美代²⁾, 川田 尚弘³⁾, 原田 哲夫¹⁾
1)高知大学大学院環境生理研究室 2)東海学園大学健康栄養学部 3)成蹊大学経済学部
- P2-21 もち性大麦品種「キラリモチ」の健康機能性の調査研究
谷口 啓子¹⁾, 小前 幸三²⁾, 高橋 飛鳥³⁾, 吉岡 藤治³⁾, 曾根 良昭⁴⁾
1)美作市 2)農研機構甲南女子大学 3)農研機構 4)美作大学
- P2-22 高齢者における入浴事故予防行動の促進および阻害要因
橋口 暢子¹⁾, 金納 史佳²⁾, 小崎 智照²⁾, 庄山 茂子²⁾, 樗木 晶子¹⁾, 栢原 裕³⁾
1)九州大学大学院医学研究院 2)福岡女子大学 3)九州大学大学院芸術工学院
- P2-23 身体発育データに基づく成熟度とトレーニングの適時性
小椋 優作¹⁾, 藤井 勝紀¹⁾, 糟谷 浩輔¹⁾, 可兒 勇樹¹⁾, 田中 望²⁾
1)愛知工業大学大学院経営情報科学研究科 2)東海学園大学スポーツ健康科学部
- P2-24 幼児期身体発達における平均縦断的4点補間による解析
田中 望¹⁾, 藤井 勝紀²⁾, 糟谷 浩輔²⁾
1)東海学園大学 2)愛知工業大学大学院経営情報科学研究科
- P2-25 乳幼児における身体発育と高度経済成長との相関構図
可兒 勇樹¹⁾, 藤井 勝紀¹⁾, 糟谷 浩輔¹⁾, 小椋 優作¹⁾, 田中 望²⁾
1)愛知工業大学大学院経営情報科学研究科 2)東海学園大学
- P2-26 Fujimmon の発育曲線の提唱
藤井 勝紀¹⁾
1)愛知工業大学大学院経営情報科学研究科